

## ニュージーランド ロケット・リンゴの輸出量は2倍に

[PRODUCE PLUS 2024年3月26日](#)

ロケット社は、世界市場に向けたニュージーランド産リンゴの周年供給を計画しており、今シーズンはこれまでで最大の収穫量を予想

ニュージーランドのリンゴ生産・出荷業者であるロケットグローバル(Rocket Global)社は、昨年のほぼ2倍にあたる約2億個のロケットブランドのリンゴを輸出するこれまでで最大のシーズンに期待している。ホークスベイ地方を拠点とする同社はまた、拡大し続ける同社の国際市場ネットワークに向けて、初めてニュージーランドからの周年供給を行う。

マーク・オドネルCEOは、過去数年間のコロナ禍とサイクロン被害から順調に回復している同社にとって、2024年は前例のない成長の年になると述べた。(以下「」は同氏の発言)

「弊社には、野心的だが達成可能な成長目標があり、我々の目的は、強力な販売・マーケティング計画を通じて世界で最も愛されるリンゴブランドとなり、2023年に苦労が多かった弊社の契約生産者に十分な利益をもたらすことである。」

「2024年はこれまでで最大の収穫があり、素晴らしい年になることはわかっていた。しかしここ数年は困難な年で、収穫の最盛期にコロナ禍に見舞われ、収穫・梱包の労働力に大きな圧力がかかった。そして昨年は、サイクロンでリンゴの3分の1が失われた。」

「そのため、収穫量を着実に倍増させていくのではなく、全てを一気にやろうとしている。そして、今年はニュージーランドからの周年供給を達成する最初の年になる。我々は、ニュージーランドでの栽培を増やし、世界市場での流通チャネルと販売棚のスペースを増やすことで、これを達成した。」

同社は、この成長に合わせて、インドなどへの海外販売を拡大する計画である。同社はインドで、潜在力の高い同市場における足がかりを確保する目的でリンゴを販売してきた。

「中国、中東、ベトナムといった主要なグローバル市場での販売額は2倍以上に増加しており、北米のセブンイレブンやサークルKをターゲットとしたコンビニエンスストアの販売経路など、従来は商品を提供してこなかった新しい市場にも進出している。」

執筆者: ブリー・カッジャティ

(翻訳記事は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品等を推奨するものではありません。)

## トルコ 気候変動がブドウ栽培に影響を与える可能性

[FreshPlaza 2024年3月26日](#)

最近の研究では、気候変動がトルコのブドウ栽培に及ぼす影響が強調されており、気温の上昇と降雨量の減少により、今後30年間でブドウ生産に適した地域が変化すると予想されている。気候の変化に敏感なブドウは、こうした環境変化により、収量と品質の両面で脅威にさらされている。

具体的には、この研究では、重要なブドウ産地であるマニサ、デニズリの両県でのサルタナブドウの収量の減少を予測している。逆に、黒海地方西部の内陸部や東アナトリア地方西部などの地域ではサルタナ種の栽培により適してくる可能性がある。また、エーゲ海地域では、高温下で良く育つボーアズケレ(Boğazkere)、エクズゴズ(Öküzgözü)、シレ(Şire)などの品種が適する可能性があることが示唆されている。

気候変動の悪影響を緩和するために、新たな適地で暑さと水ストレスに強いブドウ品種を栽培するなどの適応戦略が提案されている。

出典: [bianet.org](http://bianet.org)